

# 生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 96

## 今月のテーマ

## 家計診断の実際 Part.1

家計の健康診断の必要性をこれまで2回に渡って説明をさせて戴いたが、皆さんにはご理解いただけたでしょうか？長々と講釈を垂れる身としても、文章でどう伝えるかを考えるのは結構大変なものである。それを読む皆さんにとっても、その理解には結構苦勞されていることとお察する次第だ。情報の伝達方法にもいろいろあるが、文章の利点は自分のペースで読み返したり保存したりすることが出来る部分だ。何とか皆さんそれぞれの家計に於いて実践されるよう願うばかりだが、どう表現すれば解り易く、また実践してもらえるかを考えていると、ついつい専門用語が飛び出したり、難しい言い回しにもなりがちだ。出来るだけ“ぶっちゃけた”肩の凝らない文章になるように…とは思っているが、皆さんの目にはどう写っているかが少々気になる次第だ。なんせ、小中学校の宿題の中で「作文・感想文」が最も嫌いだった人間が書いているのだから…！さて、言い訳はこれくらいにして本題に入ろう。

今回は、文章よりも家計の健康診断の実際として「表やグラフ」をご覧いただき、健診・検診の結果を視覚的に見てもらおうという主旨である。ことわざに「百聞は一見にしかず」なるものがあるが、今回はそれを実行してみようというのだ。

ならば、と「百聞は一見にしかず」の意味を辞書等で調べてみたら、「人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見るほうが確かであり、よくわかること」とあったが、なんと続きがあると云う。百聞は一見にしかずの後は、「百見は一考にしかず」、「百考は一行にしかず」、「百行は一果にしかず」と3つ続くそうだ。なんだか国語の解説のようになってしまおうが、家計の健康維持に役立つそうなので、少し踏み込んでみよう。

- ・百見は一考にしかず…「いくらたくさん見ても考えなければ意味が無い」
- ・百考は一行にしかず…「いくらたくさん考えても実行に移さなくては意味が無い」
- ・百行は一果にしかず…「いくら実行に移しても成果をあげなくては意味が無い」

ということは、「自分の目で見て考え、それを実行に移し、成果につなげる」ということが重要だということに解釈できる。

国語の授業はこれくらいにして、具体的な家計の健全化の成果に向かってLet's go!



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)  
株式会社トータルライフサポート代表取締役  
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー  
・1級ファイナンシャルプランニング技能士  
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師  
・住宅ローンアドバイザー  
・金融広報アドバイザー

### ● 家計の健康診断における目的の再確認

家計の健康診断における目的を簡単に定義づけると、現在の収支はもちろん、将来に予定・予想されるライフイベント(将来の計画)を資金面からとらえ、住宅資金・教育資金・老後資金などの収支に問題がないかを確認することにある。

### ● 主な前提条件

まずはそれぞれの世帯における「ライフプラン」を具体化するところから始めなければならぬ。ここでは、一定条件をもとにサンプルとして作成する。これらの前提は、1000の世帯があれば100通りの特殊性も存在するだけに、結果はあくまでも参考値にしか過ぎない。

今回のサンプル数値は、可能な限りのリアリティを持たせたつもりなので、この結果を基準値にプラスマイナスの上、判断していただきたい。

実際のライフプランニングにおける資料は40ページにも及ぶものだが、主な資料としては次の①⑥が挙げられる。

- ① ライフイベント表
  - ② 今後の収支と金融資産残高の推移予想
  - ③ お子様のための支出推移
  - ④ 取得予定の住宅ローン
  - ⑤ 公的年金の受取予想(平成28年度基準)
  - ⑥ 今後のキャッシュフロー表(収支確認表)
- 今回は紙面の都合上、①と②を紹介し、続きは次号以降紹介させていただきます。

## 保険と暮らしの相談センター

### ご加入中の火災保険は大丈夫?!

- ～火災保険のチェックポイント!!～
- 補償の対象(建物と家財)
  - 補償の内容(必要な補償を確認)
  - 補償額(保険金額は適正か)
  - 地震保険のチェック!

**相談料は無料!!**  
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社  
トータルライフサポート  
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22  
● 営業時間: 9:30~19:00 ● 定休日: 水曜日  
**TEL 018-827-7611**  
**FAX 018-827-7610**  
**URL http://tls-akita.co.jp**



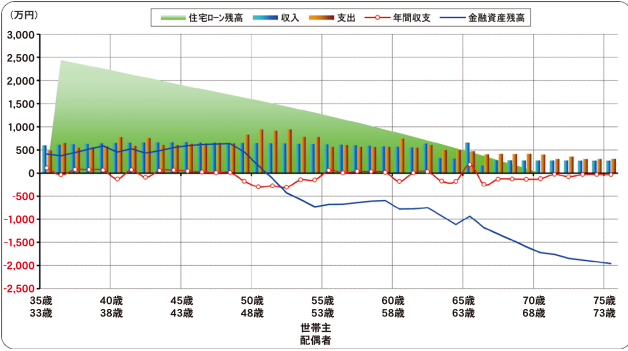
① ライフイベント表

ライフイベントとは、大まかにいうと結婚・出産、住宅取得、子どもの進学、子どもの独立、退職というステージに分けられる。表には、これらの他、趣味や旅行、資格取得など、家族それぞれの実態が反映されていなければならない。

ライフイベント表は別の見方をすると、世帯それぞれの将来年表とも言える。家族の将来を考え始めるきっかけになるし、自身の生き方や人生そのものを見つめなおすことにもなるに違いない。

表1の「ライフイベント表」にはイベントごとの必要資金とは表示されていないが、将来におけるこれらの予定が明確になることにより、必要資金や準備すべきことが逆算的に見えてくる。上段のグラフにはライフイベントが反映された「住宅ローン残高」、「収入」、「支出」、「年間収支」、「金融資産残高」を反映された「住宅ローン残高」、「収入」、「支出」、「年間収支」、「金融資産残高」を確認できる。ここで最も注視しなければならないのは、52歳時点での「金融資産残高」であるが、次の「金融資産残高の推移」を見てみよう。

【表1】ライフイベント表

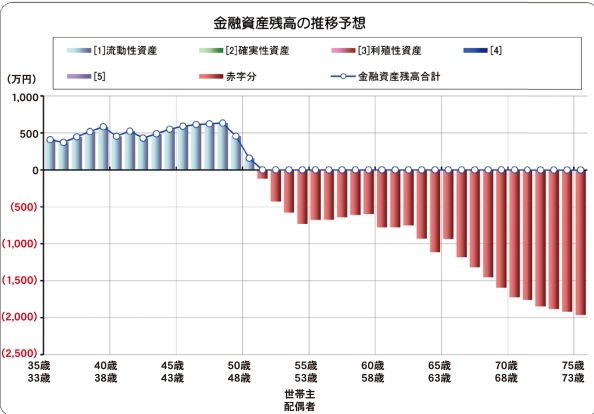
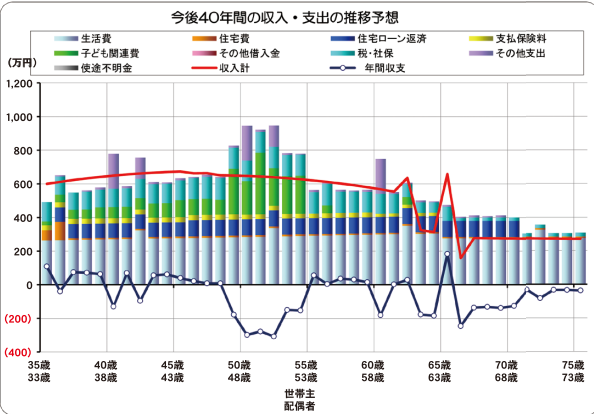


主なイベント

西暦 世帯主/配偶者	イベント	西暦 世帯主/配偶者	イベント	西暦 世帯主/配偶者	イベント
2018年 36歳/34歳	▼第二子幼保入園	2030年 48歳/46歳	▼第二子高校入学	2044年 62歳/60歳	▼配)退職
2019年 37歳/35歳	▼第一子小学校入学	2031年 49歳/47歳	▼第一子大学進学	2047年 65歳/63歳	▼リタイア ▼世)退職
2021年 39歳/37歳	▼第二子小学校入学	2033年 51歳/49歳	▼第一子就職	2049年 67歳/65歳	▼世)公的年金開始
2025年 43歳/41歳	▼第一子中学校入学	2036年 54歳/52歳	▼結婚25周年銀婚式	2061年 79歳/77歳	▼結婚50周年金婚式
2027年 45歳/43歳	▼第二子中学校入学	2037年 55歳/53歳	▼第二子就職		
2028年 46歳/44歳	▼第一子高校入学	2038年 56歳/54歳	▼第一子結婚		

【表2】今後の収支と金融資産残高の推移予想グラフ

今後40年間の収支および金融資産残高の推移予想は以下のとおりです。



② 今後の収支と金融資産残高の推移予想

表2上段のグラフでは、主な項目の支出金額が視覚的に捉えられ、年度それぞれの収支が見えてくる。収入の変化は大きくないものの、支出金額は年度毎に大きな変化が見取れる。仮にその年度がマイナスであったとしても、大事なのは金融資産の残高によりマイナス部分を吸収できるかどうかだ。

下段のグラフを見てみると、52歳には資産残高がマイナスに転じてしまうことだ。極端な言い方をすれば家計の破たんを意味する。この状況はこのサンプルだけに見られる特殊な例ではない。現状、何の対策も取っていない見直し前のものではあるが、多くの家計がこのような状態になることは珍しくはない。問題はこのような状況を受け止め、どう対処するかであり、ある意味ここからがライフプランニングの出発点だ。

このままでは将来が悲観的になりそうだが、予定された夢や計画を実現させるところに「ライフプランニング」の神髄がある。このケースでも改善できることを信じて疑わない。

資料を大きいサイズでご覧になりたい方は

弊社ホームページのトップページ下部にある「トータルライフサポートからのお知らせ」欄に、「エー・クラス関連資料」として掲載させていただきます。(http://tis-akita.co.jp/)

尚、現物をご希望の方には郵送で資料をお送りさせていただきますので、ご一報ください。

来月号は…

今月掲載しきれなかった③以降を解説する。